

# ヨーロッパの基層文化と近代

研究代表者 松 本 彰

## 1. 分担者

松 本 彰 (人文学部)  
高 橋 秀 樹 (人文学部)  
細 田 あや子 (人文学部)  
高 木 裕 (人文学部)  
桑 原 聡 (人文学部)  
逸 見 龍 生 (人文学部)  
井 山 弘 幸 (人文学部)  
三 浦 淳 (人文学部)  
石 田 美 紀 (人文学部)

## 2. 協力者・所属

原 聖 (女子美術大学教授)

## 3. 2008年度の研究活動の概要

2008年9月8日に19世紀学研究所主催で、「いまさら、ヨーロッパ-ARS (技術, 芸術, 科学) の文化と『近代』」をテーマに公開シンポジウムを行った。シンポジウムで発表したメンバーは、1991年から4年間、川田順造を代表者として国立民族学博物館で行われた共同研究「ヨーロッパ基層文化の研究」の成果(『ヨーロッパの基層文化』岩波書店, 1995年)を継承し、研究を進展させるために学際的な交流をつづけてきた。シンポジウムでは、これまで個別に論じられてきた多様な問題群を、生活史、社会史、文化史の現実の場に即して再検討し、総合的に「ヨーロッパ」、「近代」、そして「19世紀学」、つまり「学問、大学の歴史における19世紀」を検討する貴重な機会となった。

#### 4. 2008年度の研究成果の概要

上記のシンポジウムの報告として、『19世紀学研究』第3号に、「特集1 いまさら、ヨーロッパ—ARS（技術，芸術，学問）の分化と「近代」—」として、以下の論考が掲載された。

川田順造 技術文化の指向性に見る〈ヨーロッパ近代〉

松本 彰 ハーモニーの科学と美学，そして工学

—ヨーロッパ音楽と鍵盤楽器—

陣内秀信 都市の劇場性—イタリアを中心に—

村上陽一郎 19世紀西欧におけるデモクラシーの概念

#### 5. 2008年度の研究成果の一覧

細田あや子，「ヨブ夫妻の図像学」『経験としての聖書（聖書学論集41 大貫隆教授献呈論文集）』リトン，171－198頁，2009年

三浦 淳「鯨イルカ・イデオロギーを考える（IV）——ジョン・C・リリーの場合——」『人文科学研究』第122輯，113－134頁，2008年

高橋秀樹「『イリアス』と『宰相プタハヘテプの教訓』における議論・対話」『新潟史学』第60号，42－52頁，2008年

石田美紀「50年代のジャン・ルノワール—芝居とミュージカル」京都国立近代美術館 ルノワール＋ルノワール展関連シンポジウム招待講演，2008年7月6日（日）